

音楽とライフサイエンスを融合させたコンテンツ
『10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE』リニューアル公開！
グローバルサイトも新たに公開！！

協和発酵キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：花井 陳雄、以下「協和発酵キリン」）は、2014年10月に公開したWebコンテンツ『10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE（テン・サウンズ・オブ・ライフサイエンス）』をこの度リニューアル公開するとともに、同コンテンツの英語版を制作し、新規に公開しました。



日本語サイトURL：http://www.kyowa-kirin.co.jp/10_sounds/

グローバルサイト（英語）URL：http://www.kyowa-kirin.com/10_sounds/

『10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE』は企業ブランディングを目的としたWebコンテンツです。協和発酵キリンの特徴を表した10のキーワードを、10人のアーティストが音楽を用いて表現することで、当社および当社事業をより身近に感じていただける内容になっています。また、普段見ることができない参加アーティストの楽曲制作風景や、各テーマや音楽に対する想いを語った姿を映像でお楽しみ頂くことができます。

今回のリニューアルでは、これまでのページ構成を刷新し、各テーマ・アーティスト別に楽曲、インタビュー映像を1つのページにまとめ、スマートフォンでも閲覧しやすいデザインとなりました。またトップページには、10名分のインタビュー映像をまとめた映像を掲載し、より直感的に本プロジェクトを感じていただけるような内容となっています。あわせて今回、海外のお客様にも楽しんでいただけるよう、全てのコンテンツを英語化し、グローバルサイトにも公開しました。ぜひ新しくなった『10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE』の世界をお楽しみください。

企画・クリエイティブディレクション：artless Inc.

アートディレクション・アーティストキュレーション：川上シュン

参加アーティスト×キーワード

1. 渋谷慶一郎×バイオテクノロジー
2. no.9×リサーチパーク
3. STUDIO APARTMENT×ビジランス&クオリティ
4. JEMAPUR×生産技術
5. DJ KAWASAKI×オープンイノベーション
6. blanc. ×グローバル・スペシャリティファーマ
7. Open Reel Ensemble×拠点
8. i-dep×アンメット・メディカルニーズ
9. 高木正勝×抗体医薬
10. 蓮沼執太+コトリング×私たちの志

TOPページ

KYOWA KIRIN 協和発酵キリン株式会社

ホーム | 速Global | ニュースリリース | お問い合わせ

10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE

10の視点から、10のアーティストとともに、10の音楽につむぐプロジェクト

「10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE」は、
研究開発型ライフサイエンス企業・協和発酵キリンの取り組みから

10の視点から
10のアーティストとともに
10の音楽につむぐ
プロジェクトです。

生命をみつめ、生命に向き合い続ける。
その有機的交響へ、美しい音の響きをお届けします。

私たちは、ライフサイエンスとバイオテクノロジーの進歩を促すことを通じて、新しい価値を創造しています。
「バイオテクノロジー」という技術は、古くは農畜生産の増進による食糧生産や衛生に強い植物の育つための交配など、
もともと生物が持っている能力や性質を上手に利用し、人々の生活の向上に生かすという、
人類の長年研用してきた最も有機的なアプローチです。

私たちに、技術支援を基にした最先端のバイオテクノロジーを駆使し、画期的な新薬を創出することで、
社業中の病気の闘う人々のため、「熱意」と「意」を持って日々仕事に取り組んでいます。

協和発酵キリンにおいて「バイオテクノロジー」は、
生命をみつめ、生命と向き合い続ける有機的な取り組みです。
日本を代表するライフサイエンス企業として、常に新しい可能性へ挑戦し、
...2005年世界の人類の健康と暮らしに貢献していきます。

今回の「10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE」は、
私たちが発酵テクノロジーを基にした10のキーワードから、
10人のアーティストの方々に音楽で表現していただいています。
音楽制作に際しては、アーティストに専念する時間を確保してもらったため、
社員の想いを直接聞いていただきました。
私たちの取り組みがアーティストの心にどのよう響き、
音に表現されているのか、是非聞いてください。

このプロジェクトについて

> ENTER TO SOUNDS AND INTERVIEWS

サイトマップ | サイト利用規約 | 個人情報ポリシー | 個人情報取り扱いについて

Copyright © Kyowa Hako Kirin Co., Ltd. All Rights Reserved.

アーティストリスト

KYOWA KIRIN 協和発酵キリン株式会社

ホーム | 速Global | ニュースリリース | お問い合わせ

1. BIOTECHNOLOGY
by 渋谷慶一郎
2. RESEARCH PARK
by no.9
3. VIGILANCE & QUALITY
by STUDIO APARTMENT
4. PRODUCTION TECHNOLOGY
by JEMAPUR
5. OPEN INNOVATION
by DJ KAWASAKI
6. GLOBAL SPECIALTY PHARMACEUTICAL COMPANY
by blanc.
7. PLACE
by Open Reel Ensemble
8. UNMET MEDICAL NEEDS
by i-dep
9. THERAPEUTIC ANTIBODY
by Masakazu Takagi
10. OUR PHILOSOPHY
by Saita Hasunuma + KOTRINGO

サイトマップ | サイト利用規約 | 個人情報ポリシー | 個人情報取り扱いについて

Copyright © Kyowa Hako Kirin Co., Ltd. All Rights Reserved.

KYOWA KIRIN 協和発酵キリン株式会社 ホーム | 製品 | 店舗 | ニュースリリース | お問い合わせ

アーティストへ

9 10 THERAPEUTIC ANTIBODY
Masakatsu Takagi
Masakatsu Takagi × 高木正勝

10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE
Cosmos Piano for 10 SOUNDS OF LIFE SCIENCE Ver. by 高木正勝

Masakatsu Takagi

「人って、感じるところの何かにあるんだなあって、僕はすごく単純に思ってるんです。」

INSPIRED BY

THERAPEUTIC ANTIBODY

抗体医薬

Masakatsu Takagi
高木正勝

数億60兆個にも及ぶ細胞からなる人体の精緻な機構は、未知なる「宇宙」に喚ばれるほど神祕に満ちています。

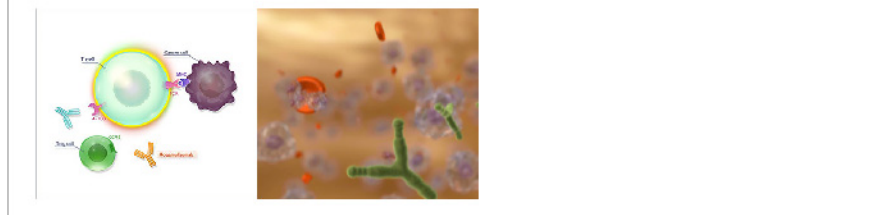
協和発酵キリンが積みこむ「抗体医薬」は、人体がもつ複雑な免疫システムの主役である抗体を医薬品として応用し、疾病治療に活かそうとするものです。

通常、ひとつの抗体が認識するのはひとつの標的だけです。その特性を利用した抗体医薬は、創作用が少なく、ピンポイントにがん細胞などの標的を狙い撃ちできるため、高い治療効果が期待できます。がんや自己免疫疾患などこれまで治療が難しいとされてきた病状に対して、抗体医薬を用いた新たな治療法への期待が高まっているのです。

協和発酵キリンでは、POTELLIGENT[®]やCOMPLEGENT[®]など独自の「抗体技術」を確立し、これらの技術を用いてより効果の高い抗体医薬の創出を行っています。

また、WEB漫画「新抗体物語」を作成し、免疫システムや抗体についてみなさまの理解をより深めていただくための取り組みも行っています。

- [▶▶ 協和発酵キリンの抗体医薬品 ～最先端の治療薬～](#)
- [▶▶ 新抗体物語 \(WEB漫画\)](#)



[Facebook](#) [Twitter](#)

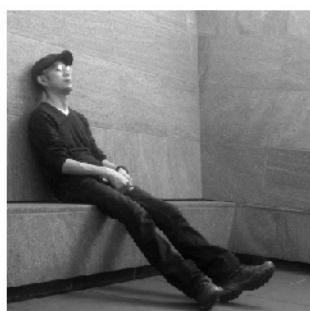


渋谷慶一郎 | Keiichiro Shibuya

音楽家。1973年生まれ。東京芸術大学作曲科卒業。

2002年に音楽レーベルATAKを設立、国内外の先鋭的な電子音楽作品をリリースする。自身のソロプロジェクトに加え、数々の映画音楽制作、音楽プロデュースなど幅広い創作活動を経て、昨年、初音ミク主演による人間不在のボーカロイド・オペラ"THE END"をパリ・シャトレ座で発表して大きな話題に。10月20日には、同じくシャトレ座でピアノとコンピュータによるソロ・コンサートの開催が決定。また、音楽の公開制作をDVDにした最新作"ATAK021 Massive Life Flow"をリリース。現在は東京とパリを拠点に旺盛な活動を展開している。

<http://atak.jp>



no.9

「音と共に暮らす」をテーマに日々の暮らしに寄り添う豊かでメロディアスな楽曲を生み出す作曲家・城 隆之のソロプロジェクト。

90年代初頭からサウンド制作・作曲活動を開始し、97年にno.9名義でエレクトロニクスとアコースティックの融合による作品制作を開始。最新作『The History of the Day』が現在も大きな反響を呼ぶなか、『usual revolution and nine』、『Good morning』など7枚のフルアルバム作品をリリース。

体温のある音楽として、TVCMやWeb、映像作品など数々の広告音楽の制作、大手航空会社など主要交通機関のチェックイン端末やオフィス機器など日々進化するテクノロジーと共に多数のサウンドデザインを手がけている。実績と経験に基づく緻密なサウンドデザインと幅広い音楽性を併せ持つ作曲家でもある。

<http://www.nano-graph.com/no9/>

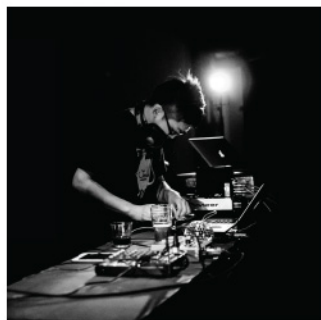


STUDIO APARTMENT

日本を代表するダンスミュージックプロデューサー兼DJ。

トラックユニット"STUDIO APARTMENT"として、これまでに9枚のオリジナルアルバム、そして300曲以上のオリジナル曲を世界各国のレーベルからリリース。

世界最大のダンスミュージックダウンロードサイト“beatport”にて、自身の楽曲が「2008年 DEEP HOUSE 部門 年間総合チャート1位」、「2009年 BEST DEEP HOUSE TRACK」を受賞し、アジア人として初の快挙を達成。同じくハウスミュージック最大のダウンロードサイト"Traxsource"にて、これまでに4つのオリジナル楽曲が総合チャートで1位を記録。世界規模で活動してる数少ない日本人アーティストである。



JEMAPUR

電子音楽家。

Eerik Inpuj Soundからのリリースを皮切りに、Hydeout Productions, W+K Tokyo Lab., Phaseworksなど様々なレーベルから作品を発表。2013年にはBETAより4thアルバム"SLIDE"をリリース。2014年3月には、Kero主宰のDetroit Undergroundより"MICROSLEEP"をリリースした。近年ではYoung Juvenile Youthとしての活動も知られており、様々な商業ワークやショートフィルム、劇場音楽へ楽曲を提供するなど、活動の幅を広げている。



DJ KAWASAKI

DJ/リミキサー/サウンド・プロデューサー/作曲家。

'05年、King Streetより12インチ・シングルで世界デビュー。'06年、コロムビアよりメジャー・デビュー。サウンド・プロデュースを担当した沖野修也の「SHINE」が、ヨーロッパで大きな成功を収めているハウス・レーベル、Defectedからリリースされ注目を集めた。これまでリリースしたシングルが、iTunesダンス・シングル・チャートにて通算8曲連続No.1を獲得。

Remixを手掛けたRoland AppelのDark SoldierがデトロイトのDJ 3000、ドイツのDJ Hellにプレイされ、アルバム『PARADISE』に収録された「Galactic Love」がJoe ClausellやKarizmaがスピンするなど国際的にも高い評価を得ている。2015年6月に『TIMELESS mixed by DJ KAWASAKI』をリリース。iTunesダンス・アルバム・チャートにて第1位を獲得。現在全国ツアー中。ホームグラウンドのThe Room(渋谷)にて、月例パーティー“MAGiC”のレジデントDJを務めている(毎月第三土曜開催)。

www.extra-freedom.co.jp/artists/dj_kawasaki/

www.facebook.com/djkawasaki

www.facebook.com/kaoru.kawasaki.92

twitter.com/djkawasaki

soundcloud.com/kaoru-kawasaki-1



blanc.

2003年、MONKEY MAJIKの活動の傍ら、サイドプロジェクトblanc.をスタート。FreeTEMPOの名曲「Sky High」の作詞、ヴォーカルを務める。2008年、1stアルバム『new world』をリリースし、2009年には2ndアルバム『canvas』をリリース。その後、数々のアーティストとのコラボレーションやDJ活動など、活躍の場を広げている。



Open Reel Ensemble

2009年より、和田永を中心に佐藤公俊、難波卓己、吉田悠、吉田匡が集まり活動開始。旧式のオープンリール式磁気録音機を現代のコンピュータとドッキングさせ、「楽器」として演奏するプロジェクト。リールの回転や動作を手やコンピュータで操作し、その場でテープに録音した音を用いながらアンサンブルで音楽を奏でる。その不思議な音色と楽曲性は高く評価され、国内、海外でのLIVEやCM音楽制作、楽曲のREMIXなども行い、メディアアートと音楽の双方からいま最も注目を集める存在である。2013年3月12日にはBOOK+DVD「回典 ~En-Cyclepedia~」を学研から出版。松岡正剛、大友良英、菊地成孔、宇川直宏、zAk、高木正勝など錚々たるメンバーとの対談をはじめ、現在のOpen Reel Ensembleをひも解く上で欠かせない内容の本となっている。ファッション界からも注目をされ、2012年秋冬のISSEY MIYAKEとのパリコレクションで音楽を3シーズン担当し、活動の場を広げている。



i-dep

プロデューサー/ソングライター/DJとして、縦横無尽にジャンルを駆け巡るナカムラヒロシによるミュージックプロジェクト。ミレニアム期にロンドンにてi-depをスタート。屋敷豪太氏をはじめとする音楽人と交流を深め、Elen Nasciment氏らと楽曲を制作。イタリアIRMA recordsよりアナログ盤として発表されたそれらの音源が国内外の早耳らより高く評価された。帰国後、ストリートミュージシャンなどにナカムラ自ら声をかけてまわり、バンドとしてのi-dep態勢を築いた。2009年にバンドを解散して以降、再びナカムラヒロシ個人によるプロジェクトとして活動を行っている。主催フェスfesta de i-depやSUMMER SONICをはじめとする国内大型フェスでのライブに加え、South By Southwest(SXSW)におけるパフォーマンスもアメリカ/ヨーロッパの業界関係者から好評を博しており、リリース作品のみならずライブ活動でも既存の枠にとらわれない自由でグローバルな活動を標榜している。



高木正勝

自ら撮影した映像の加工やアニメーションによる映像制作と、長く親しんでいるピアノやコンピュータを使った音楽制作の両方を手掛けるアーティスト。国内外のレーベルからのCD やDVD リリース、美術館での展覧会や世界各地でのコンサートなど、分野に限定されない多様な活動を展開している。

オリジナル作品制作だけでなく、デヴィッド・シルヴィアンのワールドツアーへの参加、UA やYUKIのミュージック・ビデオの演出や、芸術人類学研究所、理化学研究所、Audi、NOKIA との共同制作など、コラボレーション作品も多数。

2009年のNewsweek 日本版で、「世界が尊敬する日本人100人」の1人に選ばれるなど、世界的な注目を集めるアーティスト。



蓮沼執太

1983年東京都生まれ。音楽作品のリリース、蓮沼執太フィル/チームを組織して国内外でのコンサート公演、コミッションワーク、映画、広告、舞台芸術、プロデューサー、他ジャンルとのコラボレーションを多数制作する。アルバムに 蓮沼執太フィル『時が奏でる | Time plays - and so dowe.』、4枚組CD『CC OO | シーシーウー』など。近年の公演に『作曲：ニューフィル』（2014年 神奈川芸術劇場ホール）、『Music Today on Fluxus 蓮沼執太vs塩見允枝子』（2013年 国立国際美術館）など。主な個展に『have a go at flying from music part 3』（2011年 ブルームバーグ・パヴィリオン | 東京都現代美術館）、『音的 | soundlike』（2013年 アサヒ・アートスクエア）、『音的→神戸 | soundlike2』（2013年神戸アートビレッジセンター）、『無焦点 | unfocused』（2014年NADiff Gallery）。著書に『音楽からとんでみる』。
www.shutahasunuma.com



コトリンゴ

5歳からピアノ、7歳から作曲をはじめ。神戸・甲陽音楽院 を卒業後、ボストン・パークリー音楽院に留学し、ジャズ作曲科、パフォーマンス科を専攻。

学位を取得後にはニューヨークを拠点に演奏活動を開始。2006年に坂本龍一に見出され、シングル『こんにちは またあした』で日本デビューを飾る。以降、現在までにカバーアルバム、ミニアルバム、バンド名義のアルバムを含む、9枚のアルバムを発表。

ソロ作品のほか、「新しい靴を買わなくちゃ」「くまのがっこう」など映画のサウンド・トラックや多数のCM音楽を手がけるなど、クリエイターからの支持も高い。近年はキリンジに加入し、バンド活動も行う。最新アルバムはドラマ「明日、ママがいない」の主題歌「誰か私を」を収録の『birdcore!』。卓越したピアノ演奏と柔らかな歌声で浮遊感に満ちたポップ・ワールドを描き出す女性シンガー・ソングライターとして各方面から注目を浴びている。

企画／クリエイティブディレクション



artless Inc.

“artless”は、東京と京都を拠点にグローバルに活動するブランディング・エージェンシーです。アートとデザインを基軸に、多様な専門知識や経験を持つスペシャリストと共に、ジャンルやカテゴリーに縛られない活動を続けています。

活動領域は多岐にわたり、ブランディング、デザインコンサルティング、企業やブランドロゴ、広告キャンペーン、グラフィック、ウェブ、モバイル、UI、フィルム、モーショングラフィック、 インスタレーション、ディスプレイ、ショーウィンドウ、ホテルやブティック、ミュージアム等の建築やインテリアにまで至るアートディレクションを行う。

東京を拠点としながらも、グローバルに活動し、クライアントワークのみならず、エキシビションの主催や参加、アートワークの出品やインスタレーション、アーティスト・キュレーション等といったアート活動も精力的に行っています。

そのジャンルに縛られない横断的な活動は、カンヌ国際広告祭(金賞)、NY ADC : Young Guns、NY TDC、The One、Show、D&AD、London International Award iF designaward、DFAA (Hong Kong)、Tokyo TDC、グッドデザイン賞、Tokyo Interactive Ad Award、Webby賞の受賞等、国際的評価を受けています。

<http://www.artless.co.jp/>



川上シュン

1977年、東京都江東区深川生まれ。artless Inc. 代表。「アートとデザインの中間的表現」という自身の思想のもと、安土桃山時代を中心とする水墨画、障壁画、茶の湯、生花、盆栽、作庭、建築など、高度に洗練された「日本独自の美的理念」へ回帰しながらも、現代の「デザインの思考」との融合により生まれる、新たな美の形成を追求している。

グラフィックアーティストとして活動する一方、代表を務める“artless Inc.”は、東京を拠点にしながらも、グローバルに活動する「ブランド・デザイン・コンサルタンシー」であり、アートとデザインを基軸に、ブランディング、デザインコンサルティング、企業やブランドロゴ、広告キャンペーン、グラフィック、ウェブ、APPS、UI、映像、モーショングラフィック、インスタレーション、エキシビション、インテリア、サインデザイン、そして、建築まで、多様な専門知識や経験を持つスペシャリストと共に、ジャンルやカテゴリーに縛られない活動を続けている。

2000年、“artless”として独立し「+81 magazine」等のグラフィックデザインを中心に活動をスタート。

2008年、世界中の30歳以下の優れたアートディレクター50名を選出する「NY ADC: Young Gun 6」を受賞、翌年の2009年は審査員も行き、同年、日仏交流150周年記念事業として経済産業省が主催するパリ・ルーブル宮のフランス国立装飾美術館「KANSEI」展に選出されアートブックを制作展示。

2010年にはフィンランドのテレビ局（ch4）の為に制作した映像作品が、「カンヌ国際広告祭」（Cannes Lions International Advertising Festival）で金賞を受賞。同年、ロンドンを拠点に“Yellow Pencil”の名で親しまれ、デザインと広告における独創性を促し支援する「D&AD賞」も受賞。

2011年年始、新宿伊勢丹のショーウィンドウ／VMD（ビジュアルマーチャンダイジング）を担当。本館とメンズ館の計21面に及ぶウィンドウと、本館一階「The Stage」のアートディレクション及びグラフィックワークを制作。

2012年、デザイン界におけるオスカー賞を自称し、世界的に最も権威のあるデザイン賞の一つ。ドイツ・ハノーファーを拠点とするアワード「iF: International Forum Design Hannover (Germany)」を受賞。同年、CREATIVITY INTERNATIONAL AWARDS: 41st annualも受賞。

2013年、ONE SHOW DESIGN (NY) ゴールドペンシル／金賞、アジアを代表するデザインアワード「DFAA – Design For Asia Award 2013 (Hong Kong)」を受賞し、また、国内でも、東京TDC、グッドデザイン賞、SDA AWARDS 2013、DSA Award – Japan Design Space Association Award (GOLD PRIZE – 日本空間デザイン賞／優秀賞)と、国際アワードにおいて多数の受賞歴を持つ。

2014年、H&M Kyotoのオープニングアーティストに選出されグラフィックアート作品を制作。大胆に日本的な要素を取り入れながら、適度な距離感が保たれ、独特の美意識が感じられ、アートとデザイン領域を自在に行き交う活動は、自身の感性と時代の流れに従い、有機的な展開を見せている。

国内外でのカンファレンス、エキシビション、フェスティバルにも多数招待され、ポンピドゥー・センター（パリ）、ルーブル宮内フランス国立装飾美術館、クアラルンプール国立美術館、ミラノサローネ、TENT LONDON、DMY（ベルリン）、BODW（香港）、シンガポールデザインフェスティバル、ソウルデザインフェスティバル（韓国）、上海デザインビエンナーレ等、グローバルな活躍が目覚ましい。

<http://www.shunkawakami.jp>

<http://www.artless.co.jp>